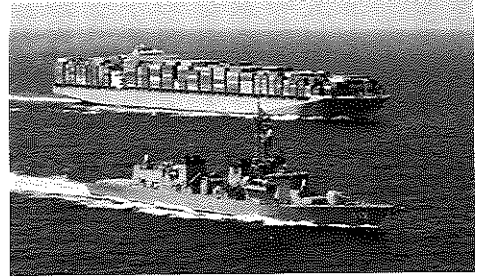


陸上自衛隊に 対する協力

事務局長 山越 孝雄

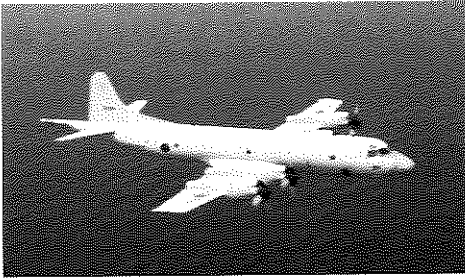
令和2年1月、中東のソマリア沖アデン湾における海賊対処行動を支援する「派遣海賊対処行動支援隊」の第13次要員として、第25普通科連隊（北海道遠軽町）の隊員（約80名）が、その活動拠点のあるジブチ共和国に向け出発した。

自衛隊は、海賊対処法（平成21年7月施行）に基づき、アデン湾の海域を通行する船舶の護衛を実施する派遣海賊対処行動水上部隊（護衛艦2隻）をアデン湾に派遣するとともに、広大なこの海域における海賊の監視警戒を行う派遣海賊対処行動航空隊（固定翼哨



コンテナ船護航中の護衛艦「まきなみ」
出典：ウィキペディア

戒機2機）をジブチ共和国（ジブチ国際空港北西地区に活動拠点を設定して運用している）に派遣している。



現地で活躍するP-3C哨戒機
出典：海上自衛隊HP

アデン湾は、機関銃やロケット・ランチャーなどで武装した海賊による事案が多発・急増している海域であり、年間約1600隻の日本関係船舶が通行するなど、日本の暮らしを支える重要な海上交通路である。



警備に任ずる陸上自衛隊員
出典：統合幕僚監部HP

今回派遣された隊員は、昨年7月に派遣された第12次要員である中央即応連隊の隊員の後を継ぎ、夏は最高気温が50度を超える厳しい環境下、24時間体制で活動拠点における哨戒機等の警備の任務に当たる。隊員の果たす役割は、日本の安全保障にとって極めて重要である。

偕行社は、第13次要員の出発に先立ち、令和元年12月18日（水）第2師団司令部（旭川）において、北海道偕行会代表世話人・木村清順氏を通じて、

先任者である能登恒（のとしさし）1尉（第25普通科連隊第2中隊長）に対して、隊員の活躍と無事の帰還を祈念しつつ、激励品を贈呈して激励した。

能登中隊長は、「激励、誠にありがとうございます。出発準備は順調に進んでいます。皆様の御期待に沿うよう立派に任務を果たしてきます」と激励に対する返礼と出発の決意を述べた。

国際貢献活動の任に当たる隊員にとって、家族を始め多くの国民の理解と感謝は、心の拠り所であり活動の原動力であります。偕行社は、陸上自衛隊のOB組織として、これからも陸上自衛隊に対する協力を行っていく所存である。



激励品の贈呈